

《課題名》腹腔鏡下胃切除術後早期肝障害における、胃と肝臓の重なりに関する検討。
《研究対象者》2011年5月から2020年5月までの間に、早期胃癌で腹腔鏡下手術を受けた方で、当院のCT撮影装置を用いて、術前に腹部造影CTを撮影されている方
研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

研究課題名：腹腔鏡下胃切除術後早期肝障害における、胃と肝臓の重なりに関する検討。

研究期間： 2011年5月1日～2022年3月31日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 放射線科 村上 陽子、消化器外科 貝田佐知子

（２）研究の意義、目的について

腹腔鏡下胃切除術後早期の合併症として肝障害の出現があります。手術時の肝挙上時間が関係しているとの報告がありますが、肝障害の具体的な原因は現在のところ不明です。術後の肝障害は必ず起こるわけではなく、その原因を探るため、手術された患者さんの術前のCTを用いて、肝臓と胃の重なり具合の程度や内臓脂肪量、肝臓の大きさなどと肝障害出現の有無を調べ、肝障害の原因を探ることが目的です。

（３）研究の方法について

対象の方のCT画像を用いて、内臓脂肪量、皮下脂肪量、胃、肝臓など各臓器の体積や面積の測定を行います。

利用する情報：血液検査データ、診療記録、CT画像、手術記録

手術で得られた組織を使用することは無く、また、新たな検査を行うこともありません。

（４）個人情報の取扱いについて

個人情報は匿名化を行い、個人を特定できないようにして使用します。研究目的以外では使用しません。研究結果は研究対象者個人には開示しません。研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

（５）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

（６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

（７）利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、（2020年12月31日までに）下記（８）にご連絡ください。

（８）問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 放射線科 村上 陽子、消化器外科 貝田佐知子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2111

メールアドレス：monn@belle.shiga-med.ac.jp